

みやまえ

宮前地区

面積：2.95 km²

人口：14,767人（高齢化率 30.8%）

世帯数：7,022世帯

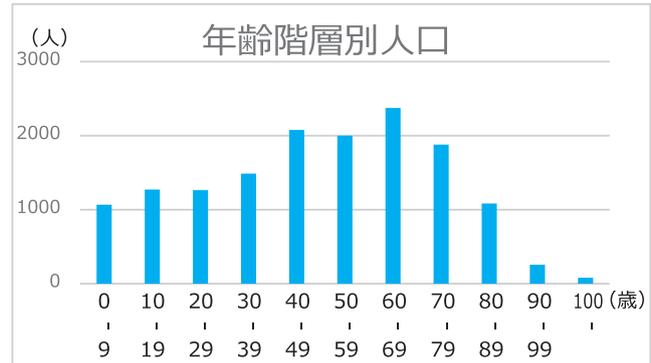


【地区の特色】

宮前地区は、松山市の北西部に位置し、松山の海の玄関である三津浜・高浜地区に隣接している。以前は農業を中心とした地区であったが、近年は宅地造成等が進んでいる。また、文楽「伊予源之丞」や虎舞といった郷土芸能、文化財史跡の保存にも力を入れ、あらゆる活動を通して明るく住みよいまちづくりを推進している。



虎舞



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校のグラウンドにて防災訓練を行い、避難経路の確認や炊き出し訓練を行っている ・ 新しい家、若い世代も増えて、一部では子ども会も復活し、三世代交流が行われている ・ 高齢クラブやグラウンドゴルフ愛好者などが、利用する公園や地域の美化に努めている ・ 公民館が中心となって、伝統芸能の伝承活動の支援、サークル活動の発表や個人の作品の展示会など、各種の文化活動が盛んである ・ 交通機関、医療福祉施設、生活関連施設、教育施設等も充実しており、住みやすい ・ 様々な団体との連携、協力体制がよく、役員 OB との連携も継続している
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地盤の低い一部の地区や道路の狭い地区では、災害など緊急時の避難体制に不安がある ・ 要援護者の把握と支援体制が不十分で、地域防災との連携強化が必要である ・ 町内会加入世帯の減少に伴い、近隣との関係が希薄な地域もある ・ 各団体のリーダーの高齢化が進み、次世代リーダーの育成が遅れている
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年々高齢者が増加し、独居高齢者・高齢者世帯の対策が必要 ・ 増加する高齢者、要支援者の把握 ・ 介護が必要にならないようするための対策（健康寿命の促進方策） ・ 近所づきあいの希薄化、地域コミュニティ不足への対応 ・ ひとり親世帯や障がい者の実態把握と支援体制

宮前地区社会福祉協議会

次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく

構成団体	地区民協・公民館・PTA・母子会・保護司会・婦人会・高齢クラブ連合会 支所・中学校・小学校・広報連絡協議会・サロン代表者	
主な取り組み	活動内容	
3 地区合同施設訪問	毎年、三津浜・高浜・宮前地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。	
高齢者の見守り活動	民協会と協働して 75 歳以上の高齢者や寝たきり・独居高齢者を訪問して品物を贈り、現況を確認するなど見守り活動を行っています。	
地域団体との連携	地域で活動している様々な団体に助成を行うとともに、情報共有して連携した活動が強化されるよう取り組んでいます。	

世代間交流の推進

福祉学習事業の一環として、小・中学校の子どもたちが地域の高齢者や障がい者施設を訪問したり独居高齢者に年賀状を送るなど、世代間交流を推進しています。



＜地区社協が目指すもの＞

宮前地区社協は、基本理念を「次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく」とし、人々の心のふれあいを大切に相互支援の輪を広げる活動を推進しています。

当面の課題は、高齢者の寝たきりを防ぐ方策や健康寿命を延ばす活動、また、恵まれない人達への支援など地域福祉の要望に対応できる仕組みづくりを行うことです。そのため、地区内の各組織・団体と福祉課題を共有し、相互に連携した活動の推進に努めること、及び組織の交流によって次世代へつながる人材を育成していけるよう取り組んでいきたいです。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	23名 2名	■町内会・自治会・区長会等	31 団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	4 クラブ 23 団体 31 組織

JRと私鉄の駅があり、市内郊外へ出かけるのに便利であると同時に、地区近隣の高等学校へ通う生徒の玄関口となり、朝夕は若者の往来で賑わいます。教育のほか医療、福祉、交通機関等が整備されており住みやすいため、転入者も多くみられる地区です。新たに住民が増えると地区内での関係づくりが問題となりますが、地区内団体間での連携や多世代交流などにより地域力を保っています。地区社協が取り組む世代間交流活動は、保護者が地区外出身者の子どもたちも、地区の一員として生活をしている実感を得る貴重な取り組みとなっています。地域を支える人材育成が世代交代をスムーズにすることが期待されています。

ココがポイント



み つ は ま

三津浜地区

面積：0.96km²

人口：5,126人（高齢化率 35.6%）

世帯数：2,661世帯

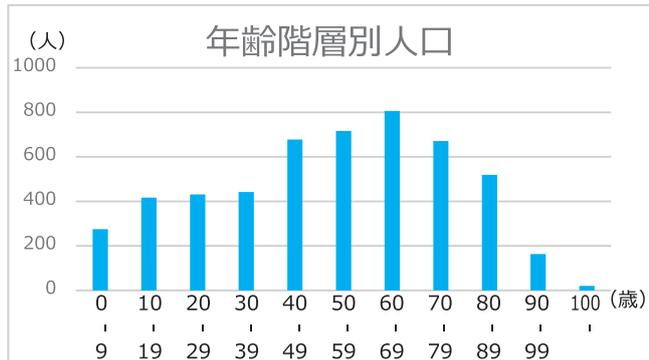


【地区の特色】

三津浜地区は、松山市の西部に位置し、南には松山空港、北端には松山市の海の玄関にあたる松山観光港を控えており、その中間部に位置する。また、朝市や海運と商業の町として栄え、地理的には海岸沿いで広い土地がないため昔から居住している人が多い。風物として、三津と港山を結ぶ「渡し船」があるなど古い情緒が残っており、最近では夏の花火大会として有名な地域である。



瀬戸内海と宮前川に挟まれた三津浜の町並



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に便利 ・資金がある（各種団体に助成）特に青少年健全育成に力を入れている ・社会資源が豊富（支所、警察署、消防署、図書館、教育機関、交通機関、スーパー、神社、お寺等） ・昔から海運と商業で栄えた町で豊富な経験 ・狭いエリアの中に生活の拠点 ・知識を有する多様な人材を輩出した地区である ・陸、海、空、公共交通機関のアクセスがよい ・旧 38 町毎に町内会があり各種活動を行っている ・下町の間人関係が町に残り、住民同士の顔が分かる地域 ・各種団体の役員がリーダーとなって地区の活性化に努めている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化と若い人の転入が少なく過疎化が深刻な問題 ・少子化で伝統行事が受け継がれていくか心配 ・気軽に利用できるスポーツ施設が少ない ・小学校の児童数の減少で（1～2クラス）クラス対抗の競技ができなくなった ・地域のリーダーとして活動している人は高齢者が多く、一人が多くの役を引き受けて活動している ・新しいもの、よそ者を受け入れにくい土壌がある ・人心一新、若い人が力を発揮できる環境整備に取り組みないと組織の風通しが悪くなる
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（過疎化の進行が松山市の市街地域では一番） ・少子高齢化が進行している ・高齢化に伴う人材不足 ・若きリーダーが育っておらず次世代へのバトンタッチが進んでいない ・空き家、空き店舗が増加している ・他団体との連携が十分ではない ・住民間のコミュニケーションの希薄化が進行している ・法律が壁となり、キメ細やかな福祉活動がその先へ進めない ・三津浜にあった古来伝統文化が伝承されず一部途絶え消滅状態にある

三津浜地区社会福祉協議会

ふれ合いで、笑顔あふれる、三津の街

〈拠点〉 松山市住吉2丁目5番25号（ふれあいサロン三津浜内）

構成団体	地区民協・公民館・子ども会育成者連絡協議会・高齢クラブ連合会・広報部会 自主防災組織連合会・松山西交通安全協会三津浜支部・母子会・保護司会第9分区 中学校・小学校・PTA・婦人会・西地区少年警察ボランティア協会・まちづくり協議会
主な取り組み	活動内容
3地区合同施設訪問	毎年、宮前・高浜・三津浜地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。
三津浜地区敬老会	79歳以上の在宅高齢者約570名のうち、100名を超える方が一堂に会して、式典や小学生による催し物など楽しんでおられます。
基金の有効利用	高齢者福祉、青少年の健全育成、地域交流促進を目的とし、各種事業に善意の福祉基金を有効利用することに努めています。

伊予鉄三津駅前花壇整備

地域福祉サービス事業の一環として、年間を通じ毎週月曜日と木曜日、三津浜地区の協力会員が駅前帯の環境美化のために、水やりと花壇の清掃に取り組んでいます。



〈地区社協が目指すもの〉

三津浜地区もご多分にもれず少子高齢化が進み、現在、高齢化率は約36%と松山市街地でも高い比率となっており、今後も急速に上昇すると見込まれています。このような状況下において地域の各種団体が連携して誰もが参加できるコミュニケーションの機会やふれあいの場をつくり、老いても若きも笑顔でふれあう機会を増やすことが、現役世代を巻き込み、高齢者の健康寿命を延ばし、若年層の情操教育に有効であると考えています。地域の福祉向上に向け、これからは子どもから高齢者までの全世代を対象とした施策を積極的に講じていくこととしています。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	19名 2名	■町内会・自治会・区長会等	38団体
	■まち協の設立	平成22年度	■高齢クラブ	2クラブ
			■子ども会	24団体
			■自主防災組織	29組織

松山市内最大の花火大会の開催地で、地域住民と中学生ボランティアが協力して祭りを盛り上げています。地区社協では施設訪問等で地区内の福祉施設と日頃から連携を図っているほか、地区内各種団体の連携をいかした敬老会や駅前花壇整備などの地域活性化活動にも取り組んでいます。また、地区社協発行の「福祉だより」は企業広告として施設の紹介を行うなど内容を充実化させるほか、全面カラー印刷にするなどの工夫を常に行うことにより住民に見やすく福祉を身近に感じることのできる発行物となっています。



たかはま

高浜地区

面積：4.57km²

人口：7,432人（高齢化率 36.8%）

世帯数：3,553世帯

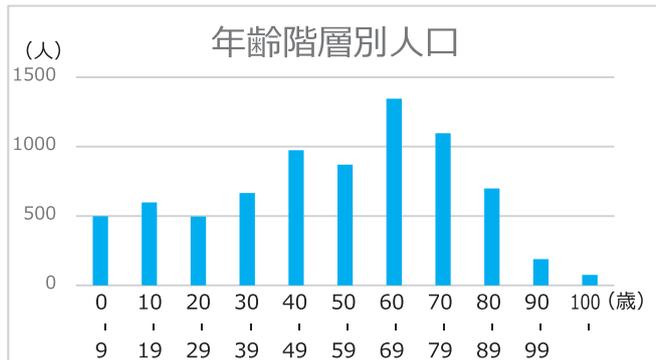


【地区の特色】

松山市の北に位置する高浜地区は、緑濃い山を背景に目の前には穏やかで美しい瀬戸の海を望む自然豊かな地区である。松山の海の玄関としても栄えており、文化財にも恵まれている。また、高浜は带状に長く、北から南まで5kmほどある。以前は農業と漁業のまちであったが、市内中心部にほど近いこともあり、最近では会社勤めの人が多くなってきている。



ターナー島



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、子どもたちへの挨拶や声かけがとても良くできている ・地域行事への参加が多い ・近隣住民の支援体制ができている ・隣近所の情報がよく分かっている ・タクシーを乗り合わせて買い物に行く近所づきあいがある ・Uターンして住む人や移住してくる若い世代もあり、住みやすく人気の地区である ・中学校の新入生が増加している ・地区内に別荘地がある ・災害時の要援護者の把握ができている ・高浜地区の各種団体の連携がとれている ・食べ物（特に魚）がおいしい
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会などへの参加者が少ない ・分館、集会所に駐車場がなく、行事への参加がしにくい ・スーパー、病院が少ない ・ループバスが通っているがバス停が少ないため、駅から離れた地域は交通手段に困る ・漁師の跡継ぎが少ない
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・南北に長いので生活状態が異なる ・地区内にスーパーがないため、買い物に不便 ・総合病院が遠いので不便 ・交通手段がないため、タクシーの利用頻度が高い（病院、買い物など）

高浜地区社会福祉協議会

海の高浜 福祉はひとつ

構成団体	地区民協・公民館・町内会連合会・高齢クラブ連合会・保護司会・自主防災連合会 交通安全協会高浜支部・警察協助手員高浜支部・青少年健全育成連絡協議会・PTA	
主な取り組み	活動内容	
3地区合同施設訪問	毎年、宮前・三津浜・高浜地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。	
福祉学習事業への支援	毎年、小・中学生とその親を対象とした地引網や学校へ泊ろう大作戦、親子スポーツデーに助成し、活動を支援しています。	
資源ごみの回収	アルミ缶を回収、換金し、和室で使える低めのいすを購入して各町に配布したり、ペットボトルのフタを集めて小学校の活動に協力しています。	

友愛訪問 (毎年3月1日)

福祉学習事業の一環として、高浜中学校の一年生と民生委員・児童委員が独居高齢者のお宅を訪問したり集会所に集まったりして、ゲームや話をするなど交流を深める活動を支援しています。



＜地区社協が目指すもの＞

高浜地区は、松山観光港がある松山市の海の玄関口であり、また、夏目漱石の小説「坊っちゃん」に出てくる四十島（ターナー島）のある魅力あふれる地区です。しかし、最近では少子高齢化が進み、安心して住みよい高浜地区を目指すには新たな基盤整備を行う必要があります。高浜地区社協としても公民館・地区民協等の既存の諸団体、また、平成31年度から発足する「まちづくり協議会」との連携強化を図り、誰もが住みやすい地域を目指していきます。また、海の玄関口である地域として観光客にもいい印象をもってもらえる地域でありたいと思っています。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	16名 2名	■町内会・自治会・区長会等	16団体
	■まち協の設立	平成30年度(準)	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	5クラブ 14団体 16組織

平成30年7月の豪雨による被災の大きかった地区ですが、日頃の近所付き合い（声掛け）が人命を守り、減災につながりました。今後、災害時要援護者の把握等について、今回の災害を教訓とした、地区社協・民協と自主防災組織等との連携のあり方や仕組みづくりに取り組むことになっています。それを可能にするのが世代をこえた地区内のつながりの強さです。例えば福祉学習事業への支援では子どもたちが地域を身近に感じることができ、また、小学校のエコキャップ運動への協力では地域の支えを感じることができる体制を地区社協が整備していると考えられます。これらの活動が地区区内における日常的な側面も含めたつながりの維持を支えているといえるでしょう。

ココがポイント



ごごしま

興居島地区

面積：8.74km²

人口：1,187人（高齢化率 62.3%）

世帯数：668世帯

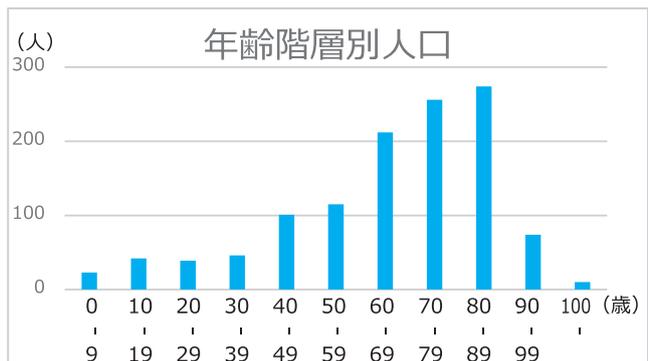


【地区の特色】

瀬戸内特有の温暖な気候、人情味溢れる住民、おいしい果物・魚介類など自然にめぐまれた地域である。最近は特に高齢化・少子化が進んでいる。大変歴史が古い地域で縄文式土器も出土されており、平安時代には無形文化財に指定されている「船踊り」も活発であったと記されている。また、神社、仏閣等、非常に古い時代に建立されており歴史の古さを物語っている。



無形文化財「船踊り」



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団結が強い ・住民間でのつきあいがある ・治安がいい ・人が優しい、温かい ・子ども達からのあいさつが活発 ・海の幸、山の幸がある ・みかんがおいしい ・自然が多い ・釣り人が来る ・お試し移住施設（ハイムインゼルごごしま）がある
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が悪い ・食堂がない ・コミュニティの場がない ・獣害（いのしし） ・空き家が多い ・農業をする若い世帯は通いで来ている（親と同居せずに住める住居があれば移住したい） ・ふれあいタクシーの運転手が少ない（現在、車7台・運転手9名）
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のみの世帯、高齢者の独居世帯が多い ・身寄りが無い人が多くなった ・足腰が弱るとゴミ捨てや畑のある山に行けない ・子ども、若者が少ない ・公共の交通機関がない ・買い物や通院が不便 ・島外への病院（専門科）へ行きづらい ・コミュニティの場がない ・災害発生時の避難補助が必要 ・介護保険で利用できる事業所が少ない

興居島地区社会福祉協議会

思いやり 心で結ぶ ごご島の里

構成団体	地区民協・公民館・町内会・各町連絡会	
主な取り組み	活動内容	
福祉学習の推進	小・中学校と連携し、高齢者サロンと子どもの交流や清掃活動など福祉学習の推進をしています。	
各種団体への支援	島内で活動している様々な団体へ助成し、活動の支援を行っています。	
心配ごと相談	地区民協と連携して島内の高齢者宅を訪問し、生活上の心配ごとを聞いて、必要であれば地域包括支援センターに繋ぐなどの活動を行っています。	

ふれあいタクシー（過疎地有償運送事業）

島内には公共の交通機関がなく、移動手段のない住民を地域住民の手で支えるため福祉施設と連携して平成 27 年から「ふれあいタクシー」の運行を開始しました。現在、車 7 台、運転手 9 名で運行しており、買い物や通院などに年間延べ約 1,240 名の利用があります。

**<地区社協が目指すもの>**

現在、島内で運行する「ふれあいタクシー」について、5 年先を考えるとボランティア運転手の確保や利用会員の減少など課題があります。興居島地区にもまちづくり協議会が発足し、地区社協も役員として参画しているため、部会や他団体と連携し、興居島の島民のためにどうすればよいか話し合い、島民同士助け合いながら安心して暮らせる町づくりを目指していきたくて考えています。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	12 名 2 名	■町内会・自治会・区長会等	9 団体
	■まち協の設立	平成 29 年度	■高齢クラブ	7 クラブ
			■子ども会	1 団体
			■自主防災組織	9 組織

離島により人口の減少が進むなかで、市街地では難しい日常的なつながりが世代間等関係なく形成されているお互いに顔の見える関係が特徴です。島で暮らしていくためには住民同士助け合っていかなければならないという思いから、地区社協・地区民協が発起人となり、島内の福祉施設が主体となった「ふれあいタクシー（過疎地有償運送事業）」の運行を始め、地区社協として継続的な運営支援を行っています。高齢者サロンを高齢者のみの場とするのではなく、学校との連携による世代間交流や福祉教育の場としていたり、高齢者宅訪問も実際に福祉サービスにつなげているなど、一事業に複数の効果を持たせている活動は他地区の参考にもなっています。

ココがポイント



なかじま

中島地区

面積：37.35 km²

人口：3,785人（高齢化率 65.4%）

世帯数：2,150世帯

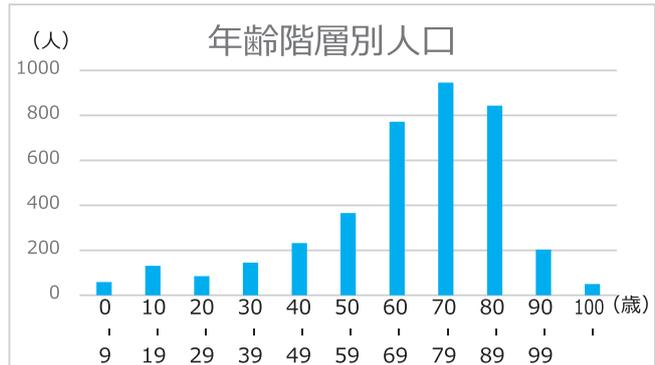


【地区の特色】

瀬戸内海の沖合いに浮かぶ中島は、6つの有人島と22の無人島から成っており、古くから忽那諸島と呼ばれ、豪族の忽那氏が瀬戸内海を舞台に活躍した栄華の名残りが今もなお跡をとどめている。温暖な気候と恵まれた自然があふれ、年間を通じて釣りが楽しめるほか、春にはみかんの花が咲き、夏にはトライアスロン大会や海水浴、秋には黄金色の実が甘い香りが島全体を包んでいる。



夏の風物詩 トライアスロン



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が少数のため、災害時等の場合には協力体制は強い ・住民がみんな顔見知り ・隣組制度がある ・強い自治組織が確立されている ・地区消防団員の活動が盛ん ・グラウンドゴルフ、クロッケー、ゲートボールの活動が盛ん ・伝統行事を守ろうとする意識が強い ・みかん、魚がおいしい ・畑が借りやすい（移住者を呼び込みやすい） ・移住者が多い
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が少ないため新しい行事、活動に取り組む意欲がない ・島を盛り上げたいという一体感がない ・働く場所が無い ・様々な組織の会長、リーダーの高齢化、後継者不足 ・民生委員・児童委員、見守り員による活動範囲の制限 ・高齢化率が高く、災害時の避難行動が不安 ・休耕地、耕作放棄地が多い ・若者の結婚が少ない ・隣組制度が崩れてきている
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の数が多い ・女性の高齢者、一人暮らしをする人が増加 ・会長、リーダーの高齢化・後継者不足 ・跡取り、介護者不足 ・若者が住めるための産業がない ・民生委員・児童委員、見守り員の高齢化により活動に制限がある ・海のため、交通が不便 ・高齢者の行く場所がない ・島で最期を迎えられない ・高齢者もしてもらっただけではなくできることをするという意識

中島地区社会福祉協議会

広げよう 6つの島の 福祉の輪

<拠点> 松山市役所中島支所 2階 TEL: 089-997-1822 / FAX: 089-997-1833

構成団体	地区民協・公民館・総代会・支所・サロン代表・福祉施設・学識経験者 高齢クラブ連合会・食生活改善推進協議会・ボランティア代表・定住促進会・議員 PTA
主な取り組み	活動内容
給食サービス	70歳以上の1人暮らしの高齢者・要援護世帯の方を対象に、春・秋・歳末に各地区民生委員が訪問しお弁当を配っています。
健康体操	1日でも長く自立した生活を送ることを目的とし、ストレッチと筋トレを行っています。毎週水曜日、参加費は無料です。
サロン事業	いきいきサロン3ヶ所、地域交流4ヶ所、地区社協独自6ヶ所の支援を継続して実施し、住民の交流の場の促進に努めています。

中島地区社会福祉大会

関係団体との連携を図りながら住み慣れた地域で誰もが安心して福祉サービスを利用し、個々の尊厳の保持と自分らしい生活を送ることができる地域社会づくりを推進することを目的として毎年開催しています。参加者の皆様の協力による「伊予柑1個運動」では、東日本大震災の復興支援をきっかけにつながりが続いている福島県郡山市へ毎年、伊予柑を送っています。



<地区社協が目指すもの>

中島地区では急速な少子高齢化や人口減少社会の到来、情報化社会の進展など私たちを取り巻く社会情勢が大きく変化し、地域コミュニティにおける人間関係が希薄となる中で、児童虐待、引きこもりや孤独死、さらには高齢者を狙った振り込め詐欺など大きな社会問題が顕在化しています。

そのため、「誰もが笑顔で安心して暮らすことが出来る福祉のまちづくり」を推進していくためには、色々な社会問題に対し私たち住民自らが主体的に支えあい「自分たちの住む地域は自分たちで守り創る」という住民意識の醸成と実践が何よりも重要と考えています。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	27名 2名	■町内会・自治会・区長会等	17団体
	■まち協の設立	平成20年度	■高齢クラブ	14クラブ
			■子ども会	0団体
			■自主防災組織	17組織

夏の風物詩となっている中島トライアスロンでは全国からのアスリートを受け入れ、島全体で盛り上げています。少子高齢化が進む中でこのようなイベントに限らず住民間による災害時の協力体制や地区消防団員の活発な活動など、皆が顔見知りだという点をいかした活動が特徴としてあげられます。特に地区社協による給食サービスやサロン事業は高齢者の孤立化を予防するとともに、人のつながりを維持する基盤になっているといえます。住民間のつながりをいかして、これからの福祉課題に対処する独自の取り組みへの転換が期待されています。

